

定

山溪国道 道路は公園のように

Jozankei Kokudo

■ 定山溪国道を支える五つの構造物群

令和八年、定山溪国道を構成する五つの構造物が国の登録有形文化財に登録されました。本パネル展では、登録を記念して、無意根大橋、薄別回廊、薄別トンネル、仙境覆道、定山溪トンネルをご紹介します。北海道の豊かな自然と調和しながら築かれた、優れた道路構造物の魅力をご覧ください。

登録有形文化財について

有形文化財とは、建物や工芸品、彫刻、古文書、考古資料など、形のある文化遺産のことです。その中でも、歴史や芸術、学術の面で特に価値が高いものが国によって保護されています。このうち建造物については、特に重要なものが「国宝」や「重要文化財」に指定され、保存と活用が図られています。また、歴史的な価値を持つ建物を後世に伝えるため、「登録有形文化財」として登録する制度も設けられています。





登録有形文化財

Registered Tangible Cultural Properties

森を抜ける公園のような道

定山溪国道は、安全で快適な走行と自然景観との調和を目指して整備された道路である。

道路や橋梁にはクロソイド曲線を採用し、雪国特有の条件に対応した橋梁、回廊、トンネルなどを配置した。これらの構造物は、機能性と景観性を兼ね備え、豊かな自然の中を走る「森を抜ける公園のような道」を実現した。

この道路を構成する次の五つの構造物が、文化的価値を後世に伝えるべく有形文化財に登録されている。

- 無意根大橋 昭和四三年（一九六八）完成
- 薄別回廊 昭和四四年（一九六九）完成
- 薄別トンネル 昭和四四年（一九六九）完成
- 仙境覆道 昭和四四年（一九六九）完成
- 定山溪トンネル 昭和四四年（一九六九）完成

